

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170503874		
法人名	株式会社 アクティブ・ケア		
事業所名	グループホームみりのり中の島 すずらん館		
所在地	札幌市豊平区中の島1条3丁目7-3		
自己評価作成日	令和1年11月16日	評価結果市町村受理日	令和1年12月20日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0170503874-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和1年11月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームから最寄りの地下鉄駅までは徒歩5分程で、バス停も近く家族や友人が来訪しやすい環境にある。駐車場も広く、周辺にはスーパーや神社・公園などがある。冬季以外は毎月外出行事を行い、外で季節を感じたり美味しい物を満喫したりしている。インフルエンザの蔓延などで外に出る機会の少ない冬季には、訪問握り寿司を呼んでお寿司の食べ放題を行ったり、ラーメン屋さんに来て目の前で作ったあつあつのラーメンを振る舞ってもらったり、楽器演奏やドッグダンス等のボランティアに来てもらい、日常に彩りを添えよう工夫している。近所の保育園児の訪問や中学生の職業体験、福祉の専門学校の実習生の受け入れ、町内会の花植えやゴミ拾い・草取り等に参加するなど外部の方々との交流する機会も多い。馴染みの方々が来訪しやすい雰囲気作りを心がけており、家族や親戚、知人や友人などの来訪も多い。普段の様子を「みりの通信」や担当者が個別のお手紙を作成し、入居者の様子を家族に伝えている。地域と災害時の協力体制を築くことで、火災や水害などを想定した避難訓練に毎回多くの町内会の方が参加している。職員は北海道高齢者虐待防止推進研修会や社会福祉施設等防火・救命実務研修会は必ず毎年受講している。また、身体拘束適正化委員会は3か月に1度開催し、より良いケアを目指して学び・話し合っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームみりのり中の島」は地下鉄駅から5分ほどの場所にあり、建物の2階と3階が住まいの2ユニット事業所である。周辺にはショッピングセンターや公園などがあり、生活の利便性に優れている。開設13年が経過し、管理者と職員は理念を共有し利用者の穏やかな暮らしを大切に熱心に取り組んでいる。事業所の目標と個人目標を作成し理念とともに週1回唱和し、職員は意識して日々のケアにつなげている。地域との関係では運営推進会議に役員の参加や避難訓練の協力も得て安全な環境を整備している。運営推進会議では外部の関係者を講師に、嚥下と薬、健康と食事内容、口腔ケア、防災など多彩なテーマでミニ勉強会も行っている。また身体拘束廃止委員会を会議時に開催することもあり、事業所の取り組みを報告している。職員は指針に沿って研修で学び、拘束をしないケアを行い、3か月ごとに自己チェック表で普段の言葉遣いや対応の振り返りも行っている。計画の見直しでは利用者とのコミュニケーションを図りながら思いを汲み取り、介護計画につなげて丁寧に対応している。利用者は神社秋祭りの相撲を見て住民と交流し、事業所内ではユニット合同でボランティア来訪での多彩な催しを楽しんでいる。毎月外食行事などを計画したり、食の楽しみを工夫し暮らしに彩りを添えて家庭的な環境を提供している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(すずらん館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホームみりのり中の島理念として「地域にとけこみ、いつまでも笑顔あふれるあたたかい暮らしを送って頂けるよう努めます。」と掲げ、月曜日の合同申し送りの際に読み上げ、意識している。	地域密着型サービスの文言を入れた事業所独自の理念を掲げ、利用者が穏やかに過ごせることを大切に理念を共有している。年度の事業所目標と個人目標を作成し、理念を唱和する際に目標も読み上げて日々のケアにつなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内のゴミ拾いや花植え、公園の草取り等に入居者と共に行えるだけ参加し、またホームの避難訓練に町内会の方も参加して頂くことで、顔なじみになり地域の一員として関係性を作っている。	神社秋祭りに子供相撲を見て住民と交流している。保育園児が来訪して歌を披露したり、敬老会には手づくり作品のプレゼントもある。ボランティアによるドックダンスを楽しみ犬と触れ合ったり、オペラを鑑賞している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や避難訓練、町内行事等で入居者と触れ合う機会を作り、認知症の方について知らない日常どんな援助が必要なのか身近に感じてもらっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では2ヶ月の活動報告や外部評価の結果、社内モニタリングの結果を伝え意見を聞いている。また、運営推進会議内で身体拘束適正化委員会も開催し、意見交換や取り組みについての報告等を行っている。	会議では外部の関係者を講師に、多彩なテーマでミニ勉強会も行っている。家族の来訪時にテーマを伝えて参加を聞いているが1~2名になっている。今後も参加できない家族の気になることを引き出しながら会議に活かすことを検討している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議では地域包括センターの職員に参加してもらい、ホームのケアや取り組みを伝えている。何かあれば保護課の担当者に報告や相談もしている。	担当者に制度内容を確認し、費用がかさむ場合は家族に説明している。生活保護担当者とは連絡を密にし、事例で相談することもある。運営推進会議で地域包括支援センター職員から高齢者の詐欺被害の情報を得ている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月に1度、身体拘束適正化委員会を開催し、身体拘束にあたることのないよう、日々のケアの見直しや身体拘束防止&メンタルヘルスチェックリストの作成・実施等を行っている。	運営推進会議時や事業所内で委員会を開催し、全職員が内容を把握している。職員は研修のほか、3か月ごとに自己チェック表で振り返りを行い、言葉遣いや対応を確認している。研修の中で身体拘束禁止行為を学び、拘束をしないケアを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年何名かずつ順番に、北海道高齢者虐待防止推進研修会を受講し学んでいる。そして受講した職員が他の職員に伝達研修を行い、全員に周知できるようにしている。		

グループホームみりのり中の島

自己評価	外部評価	項目	自己評価(すずらん館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員は研修等で日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、必要時には家族や保護課担当者等と相談し対応している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要な部分は特に時間をかけて読み上げ説明し、随時わからないことは質問してもらっている。また、改定がある場合は文書と口頭で説明し理解を頂けるよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者やご家族の要望はその都度聞き、ケアプランに取り入れる。ホームへの意見は運営推進会議でも聞き取りをしている。玄関に外部苦情申し立て機関のポスターを貼り、職員に言いづらい場合はそちらに連絡できるようにしている。	家族の来訪時に状態を説明し意見を聞いている。内容を利用者ごとに記録し「ご家族対応記録」で共有している。新人職員や担当職員が交代した際にも全職員で関わり安心できるように対応している。通信のほか、個別にお便りを送っている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員と年に2回面談を行っており、業務の見直しやケアについて等のホームの運営に関する意見を聞いている。その他合同会議やカンファレンス、職員間の連絡帳等で意見交換している。	3か月ごとに合同会議を行い、介護計画の見直し時にカンファレンスで意見を交換している。業務の提案などは連絡帳を通して対応を話し合い、必要に応じて検討している。管理者は個別面談のほか、日々気軽に話し合える環境作りをしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与は年俸制になっており、前年度の勤務姿勢や実績が反映される。また、自分自身の個人考課表をつけ更に管理者からの評価と比べることによって、本人の状態を把握できるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務の一環として社内研修や外部研修を奨励し休み以外でも研修に参加できるような体制にしている。特に北海道高齢者虐待防止推進研修会や社会福祉施設等防火・救命実務研修会は毎年受講するようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	札幌市や豊平区の管理者会議の参加や、豊平区在宅ケア連絡会・豊平区ケアマネジャー研修会等に参加することにより、同業者との情報交換や協力体制を作っている。		

グループホームみのり中の島

自己評価	外部評価	項目	自己評価(すずらん館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談から本人の要望を汲み取っている。入居後積極的に関わりを持ち、その人の気持ちや困っていること、出来ないことを理解することに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談で、家族の思いや要望を聞いている。来訪時は本人の様子を伝え、なかなか来訪できない家族にも月1回手紙で様子を伝えている。意見や要望があれば傾聴して対応できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の思いを汲み取るとともに、他のサービス利用も視野に入れその時に適した支援ができるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	居室掃除や食器拭きなど、出来ることは職員や他の入居者で行い支え合う関係づくりができるよう努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族に対し必要の都度本人の様子を相談し意見を聞くなど、共に本人を支えていけるよう関係づくりに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や知人が気楽に来訪できるような環境づくりに努めている。	近所に住んでいた方や昔からの友人が来訪している。家族とお墓参りや法事に行き、外食や買い物、馴染みの美容室や病院に出かけるなど、それぞれに出かけている。職員は趣味の継続を試しながら好きなことができるように対応している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を把握し、皆で一緒にレクリエーションを行ったり月に1度は外出行事等を行い交流を深められるよう努めている。		

グループホームみのり中の島

自己評価	外部評価	項目	自己評価(すずらん館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、相談があれば必要に応じて支援できるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者との交流を通じて、それぞれの思いや意向を汲み取るよう努めている。困難な場合は、声かけを工夫したり表情を観察し、その把握に努めている。	会話などから、日々思いを把握している。利用開始時に家族がセンター方式のアセスメントシートに記入し、職員が情報を加えているが、変化などの定期的な見直しが十分とは言えない。	日々把握している暮らしの習慣、趣味、嗜好などの変化を(B-3)シートに追記し、現在の意向を記録で共有できるよう定期的な見直しに期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を活用するとともに、必要に応じてご家族や本人からも話を聞き、より具体的に把握できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別のケース記録にその時々の様子や状況を詳細に記載し、現状の把握に努めている。脳トレや運動などを活用しながら、日々力量の変化に気を配っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の思いを汲み取るとともに、全スタッフが個別の専用モニタリング用紙に意見や情報を記載し、それらを基に現状に即した介護計画を作成している。	全職員がモニタリング記録を行い、検討会議で評価を確認し3か月ごとに介護計画を見直している。今後は、検討会議シートの下段に本人、家族の意向欄を設けて、介護計画につなげることを検討している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケース記録に様子や情報を詳細に記載し、特記事項は業務日報に記載している。併せて日中と夜間の申し送りをそれぞれ行い、職員間で情報を共有し介護計画に活かせるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の状況により、必要に応じて入居者の買い物やスタッフが代行している。家族の事情による夜間の帰館にも対応している。また、救急搬送時には状況に応じて職員が同行している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	中学校の職場体験の受け入れや近所の保育園児が来訪し触れ合っている。町内会の河川清掃や花壇の花植えに参加したり、神社のお祭りを見に行き、地域の住民と交流できるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は本人や家族の希望を大切にしている。訪問診療を受けているが、必要に応じて家族同行で他の医療機関を受診してもらっている。医療記録を個別に作り職員全員で共有している。	訪問診療のほか、かかりつけ医の専門病院を通院する際には、家族に口頭や書面で医療情報を提供している。受診内容は「医療対応記録」に利用者ごとに往診、通院を記載し経過を共有している。	

グループホームみりのり中の島

自己評価	外部評価	項目	自己評価(すずらん館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護があり、入居者の変化等は報告、相談をして指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院した場合は、早期に退院できるよう医療機関と連携し、病院関係者との情報交換や相談をしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期の在り方について、医師を交えて本人や家族の意向を確認し方針を共有している。状況に応じて看取り対応も可能である。	利用開始時に重度化対応に看取り指針の内容を具体的に文章化し、同意を得ている。状態の変化に応じて関係者で方針を確認し、調理などの工夫で可能な限り対応している。痛みが伴い、また治療が必要な時は入院を希望することが多い。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者の急変や事故発生時に備えて、全職員が応急処置などの研修や訓練を受けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力で、日中や夜間の火災や水害を想定した避難訓練を行い、地域の住民の参加、協力もある。	運営推進会議の前に防災設備会社の協力で火災の後に水害なども想定し避難訓練を実施している。町内会役員は火災発生の場所で避難の様子を見学している。昨年の地震後に危険箇所を確認したが、ケア場面の対応は今後に予定している。	今後も消防署に協力を働きかけながら、立ち会いの下での避難訓練実施に期待したい。また地震を想定し利用者ごとにケア場面について話し合い、記録で共有できるように期待したい。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お話し中の場合等は、お話が一区切りついた段階で了解を得てから声かけしている。必ず敬語を使っている。	定期的にチェックリストで言葉遣いや対応を確認したり、年2回本部が接遇マナーモニタリング調査を実施している。申し送りは部屋番号で行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の希望を伺ったり指等で指示してもらったり、自己決定できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	それとなく希望をお聞きして、それぞれ個々のペースに併せて行えるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自身でできる方にはヘアブラシや電気かみそり等こちらで準備し行ってもらっている。ご自身で出来ない方には介助している。		

グループホームみの中の島

自己評価	外部評価	項目	自己評価(すずらん館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は入居者と職員でテーブルを囲み会話しながら摂っている。食器拭きやお盆拭き等積極的に入居者に行ってもらっている。	法人の献立を基本に、利用者の好みを聞いて鰻やジンギスカンを楽しんだり、焼き肉や中華料理のランチバイキングなどに出かけている。利用者と一緒に好み焼きや白玉団子などを作ることもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量を記録して把握し、本人に合わせ味の調整をしたり、食べやすいサイズに切ったり、冷めてしまった場合は温め直して提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行ってもらい、丁寧に出来ない方は介助している。義歯洗浄は洗浄剤を使用し、定期的に歯科衛生士の口腔ケア指導を受けてもらっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	食事やおやつ前など、定期的に声かけ・誘導し自立支援している。定期以外の排泄の記録も行っている。	家族と相談して、自力でトイレでの排泄が継続できるように下着や使用する排泄用品を工夫している。手すりなどを利用して自分でできる行為を行ってもらいながら、可能な限りトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日牛乳やコーヒーにオリゴ糖をいれ、予防に徹している。水分が不足している入居者さんには、ゼリーなどを提供しケアしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の状態に合わせて入浴の声かけや介助を行っている。長く浸かりたい入居者さんにはのぼせないよう声かけ、見守りし入浴後は水分を提供している。	ほとんど毎日入浴が可能で、利用者の希望を聞きながら午前から午後の時間帯で週2回の入浴を支援している。一人ひとり湯船のお湯を交換し、好みの湯温でゆっくり入浴を楽しめるように配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	テレビ体操をしたり、手足の運動を取り入れ、日中はなるべく活動的に過ごしてもらい、夜間はぐっすり眠られるよう支援している。状況に応じて昼寝をしてもらうこともある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の効果をしっかりと確認し、把握に努めている。頓服は医師の指示に従い、本人の状態を見て用量・用途を守り服薬している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々にできる役割を把握し、クイックルワイパーで床掃除や食器拭きなどの台所仕事を手伝っていたくなど支援をしている。		

グループホームみりのり中の島

自己評価	外部評価	項目	自己評価(すずらん館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月1度の外出行事や、本人希望時は外の天気や状況、本人の体調を見て散歩・買い物などを行っている。	近隣に桜の花を楽しめる場所もあり、普段は周辺を散歩しながら外気に触れている。冬季以外は、毎月ドライブで車窓から好きな山並みを見たり、四季の移り変わりを楽しみながら外食に出かけている。家族の来訪時に散歩に出かけたり、冬季も受診で外出する機会がある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、外出時などにはお金を使えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人等からの電話の取次ぎを行っている。希望時には手紙のやりとりができるよう支援を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングに季節感を取り入れた装飾を採り入れつつ、落ち着いた配色のものを中心に利用者が長時間落ち着いて過ごせるような空間づくりを行っている。	大きな窓に面した明るく開放感のある居間と食堂は、大型のソファを配置してゆっくり寛げるように工夫している。トイレや浴室も居間から見えにくい場所であり、プライバシーに配慮した造りになっている。壁には、保育園児からのプレゼントや季節の果物などが描かれている日本手ぬぐいが品良く飾られており、家庭的な温もりが感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	読書や新聞を読めるよう、また、気の合う利用者同士と一緒にテレビを見たり談笑できるよう配慮し、ソファやテーブル、食席の配置を工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人や家族と相談しながら、使い慣れた道具や家具、家族の写真などを配置して、本人が居心地良く過ごせるような工夫をしている。	入り口のボックス型の飾り棚に縫いぐるみや本人の作品を飾り、自室が分かりやすいように工夫している。ゆったりとした居室に使い慣れたタンスや椅子を持ち込んだり、趣味の小物や手芸品などを飾りその人らしい落ち着いた部屋になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや廊下、浴室には手すりを、浴室には滑り止めマットを設置し、安全面への配慮をしている。居室の入り口には思い思いの小物を入れるスペースがあり、自室だと判りやすいようにしている。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170503874		
法人名	株式会社 アクティブ・ケア		
事業所名	グループホームみりのり中の島 ひまわり館		
所在地	札幌市豊平区中の島1条3丁目7-3		
自己評価作成日	令和1年11月16日	評価結果市町村受理日	令和1年12月20日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0170503874-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和1年11月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームから最寄りの地下鉄駅までは徒歩5分程で、バス停も近く家族や友人が来訪しやすい環境にある。駐車場も広く、周辺にはスーパーや神社・公園などがある。冬季以外は毎月外出行事を行い、外で季節を感じたり美味しい物を満喫したりしている。インフルエンザの蔓延などで外に出る機会の少ない冬季には、訪問握り寿司を呼んでお寿司の食べ放題を行ったり、ラーメン屋さんが来て目の前で作ったあつあつのラーメンを振る舞ってもらったり、楽器演奏やドッグダンス等のボランティアに来てもらい、日常に彩りを添えられるよう工夫している。近所の保育園児の訪問や中学生の職業体験、福祉の専門学校の実習生の受け入れ、町内会の花植えやゴミ拾い・草取り等に参加するなど外部の方々との交流する機会も多い。馴染みの方々が来訪しやすい雰囲気作りを心がけており、家族や親戚、知人や友人などの来訪も多い。普段の様子を「みりのり通信」や担当者が個別のお手紙を作成し、入居者の様子を家族に伝えていく。地域と災害時の協力体制を築くことで、火災や水害などを想定した避難訓練に毎回多くの町内会の方が参加している。職員は北海道高齢者虐待防止推進研修会や社会福祉施設等防火・救命実務研修会は必ず毎年受講している。また、身体拘束適正化委員会は3か月に1度開催し、より良いケアを目指して学び・話し合っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ひまわり館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホームみのり中の島理念として「地域にとけこみ、いつまでも笑顔あふれるあたたかい暮らしを送って頂けるよう努めます。」と掲げ、月曜日の合同申し送りの際に読み上げ、意識している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内のゴミ拾いや花植え、公園の草取り等に入居者と共にできるだけ参加し、またホームの避難訓練に町内会の方も参加して頂くことで、顔なじみになり地域の一員として関係性を作っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や避難訓練、町内行事等で入居者と触れ合う機会を作り、認知症の方について知ってもらい日常どんな援助が必要なのか身近に感じてもらっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では2ヶ月の活動報告や外部評価の結果、社内モニタリングの結果を伝え意見を聞いている。また、運営推進会議内で身体拘束適正化委員会も開催し、意見交換や取り組みについての報告等を行っている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議では地域包括センターの職員に参加してもらい、ホームのケアや取り組みを伝えている。何かあれば保護課の担当者に報告や相談もしている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月に1度、身体拘束適正化委員会を開催し、身体拘束にあたることのないよう、日々のケアの見直しや身体拘束防止&メンタルヘルスチェックリストの作成・実施等を行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年何名かずつ順番に、北海道高齢者虐待防止推進研修会を受講し学んでいる。そして受講した職員が他の職員に伝達研修を行い、全員に周知できるようにしている。		

グループホームみりのり中の島

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ひまわり館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員は研修等で日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、必要時には家族や保護課担当者等と相談し対応している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要な部分は特に時間をかけて読み上げ説明し、随時わからないことは質問してもらっている。また、改定がある場合は文書と口頭で説明し理解を頂けるよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者や家族の要望はその都度聞き、ケアプランに取り入れる。ホームへのご意見は運営推進会議でも聞き取りをしている。玄関に外部苦情申し立て機関のポスターを貼り、職員に言いづらい場合はそちらに連絡できるようにしている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員と年に2回面談を行っており、業務の見直しやケアについて等のホームの運営に関する意見を聞いている。その他合同会議やカンファレンス、職員間の連絡帳等で意見交換している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与は年俸制になっており、前年度の勤務姿勢や実績が反映される。また、自分自身の個人考課表をつけ更に管理者からの評価と比べることによって、本人の状態を把握できるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務の一環として社内研修や外部研修を奨励し休み以外でも研修に参加できるような体制にしている。特に北海道高齢者虐待防止推進研修会や社会福祉施設等防火・救命実務研修会は毎年受講するようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	札幌市や豊平区の管理者会議の参加や、豊平区在宅ケア連絡会・豊平区ケアマネジャー研修会等に参加することにより、同業者との情報交換や協力体制を作っている。		

グループホームみの中の島

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ひまわり館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談から本人の要望を汲み取っている。入居後も交流の時間を大切にしながら本人の思いに耳を傾け、安心して暮らしていただけるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談で、家族の思いや要望を聞いている。来訪時には本人の様子を伝え家族から意見、要望を伺い対応できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の要望を汲み取り、他のサービス利用も視野に入れながらその時々に応じた支援が提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	居室掃除や台所仕事など、出来ることは職員や他入居者と一緒に行い、互いに支え合う関係づくりができるよう努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族に対しては時に相談したり、電話や来訪時に本人の様子を伝えながら、共に本人を支えていけるよう関係づくりに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や知人などが気軽に来訪できるような雰囲気、環境づくりに努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を把握した上で、皆で一緒にできるレクリエーションを行ったり、月に1度の行事の中で交流を深め支え合えるような関係づくりに努めている。		

グループホームみりのり中の島

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ひまわり館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も継続し相談の受付を行っている旨を伝えており、必要に応じて都度対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の話を傾聴し、自分の意思を伝えられない方には表情や動作から把握するよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴や環境などを入居時に家族や本人から聞き取り、確認している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録を使用し、その日の様子や状態を詳細に記録している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族、スタッフの意見を取り入れ、カンファレンスを行って介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務前に、連絡帳・医療記録・業務日報を必ず読んで情報を把握し共有するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の状況に応じ、入居者に必要な買い物をスタッフが代行する場合がある。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	中学校の職場体験の受け入れや、近隣の保育園児が時々来訪し交流している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は本人や家族の意向をできるだけ取り入れるようにしている。訪問診療のほかに、適宜家族同行で他の医療機関を受診してもらっている。		

グループホームみのり中の島

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ひまわり館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週1回の訪問看護があり、健康面や医療的なアドバイスや指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院した場合は、病院関係者との連絡を密にして状態を確認しながら、早期退院できるような支援を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階から、家族、医師、看護師などと話し、本人や家族の意向を尊重しながら支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生に備えて、防火訓練や救命講習を受講して対策を行っている。その他にも訓練や研修を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議を活用し、地域との協力関係を築いている。地域の方々と交え避難訓練を行っている。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、誇りやプライバシーに配慮するような声掛けや対応を心がけている。記録物は見えないようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	可能な限り入居者の希望を聞き入れ、自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者に合った対応を心がけている。入居者が好きな事や得意な事を行えるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容を利用し、本人の希望に沿った髪形にできるようにしている。本人の意思を尊重し好きな洋服を選べるように支援している。		

グループホームみの中の島

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ひまわり館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	その人に合ったスプーンやフォーク等のカトラリーを提供している。食後は食器拭きやお盆拭き等できる家事を行えるよう支援している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を計測し、足りない場合は声かけや介助をしている。本人が飲食しやすいように形態を工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけ等を行い、本人が磨きやすいようタフトブラシやスポンジを使用しケアを行えるよう支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の時間や排せつ物について記録し、定期的にトイレに行けるよう声かけし、自立を支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分の提供や毎日コーヒーを提供する際砂糖の代わりにオリゴ糖を入れ、便秘の予防に努めている。テレビ体操や入居者に合わせた運動を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調に合わせて入浴日を変更したり、なるべく入居者の希望に沿った入浴時間に入れるよう、本人に何時ごろ入りたいかを聞き、臨機応変に対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中体操などの運動を取り入れ、夜間眠れるよう支援している。自分で寝返りを打てない人には、定期的に体位交換などを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	現在入居者が内服している薬の目的や副作用、用法や用量について1冊のファイルにまとめ目を通しいつでも確認できるようにしている。また、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来そうな家事などは声掛けし手伝ってもらったり、一緒にみんなで体操をしたりして気分転換等の支援をしている。		

グループホームみのり中の島

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ひまわり館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出できる体調であったり、本人の希望があれば、家族へ働きかけ、一緒に外出してもらえるよう支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持は管理が難しくまたトラブルの原因となるため原則持ち込みはやめてもらっているが、少額の現金でも持っていれば安心感が得られる入居者は所持し職員が時々本人に確認している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば家族に電話してもらったり、知人にあてたハガキを職員が投函している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をおこなっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人になりたいときは自らの居室に行ったり、共用空間ではソファを設置しゆっくりと話し合える場を設けている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をおこなっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	手すりの設置や張り紙などを使用し、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫をおこなっている。		

目標達成計画

事業所名 グループホームみのり中の島

作成日：令和 1年 12月 10日

市町村受理日：令和 1年 12月 20日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	23	日々把握している暮らしの習慣、趣味、嗜好などの変化を(B-3)シートに追記し、現在の意向を記録で共有できるように定期的な見直しに期待したい。	センター方式のB-3シートを主として、D-1・D-2シートも参考に現在の本人の状態や意向、変化などを見直し記録する。またそれをスタッフ間で共有する。	すべてのアセスメントシートを記入し直すのではなく、定期的に変化のあったシートをコピーし、色を変えたペンで付け加え、いつ記入した情報なのか、どう状態が移り変わっているのか、新しく入ったスタッフにもわかりやすいように記録する。	1年
2	35	今後も消防署に協力を働きかけながら、立ち会いの下での避難訓練実施に期待したい。また地震を想定し利用者ごとにケア場面について話し合い、記録で共有できるように期待したい。	避難訓練の際には消防署の立ち会い希望を明記し、1年に1度は来てもらえるよう働きかける。ユニット会議等で地震の際の対応を個別に話し合い、有事の際のマニュアルとなるようにする。	避難訓練の際の提出書類には消防署の立ち会い希望を明記し、提出時には立ち会いをお願いしたい旨を口頭でも伝える。地震の際の個別対応の具体例をスタッフ間で話し合い記録し、全員に周知する。	1年
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。